

日本



米国



ユーロ圏



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

債券・為替ウィークリーレポート (先進国・新興国)



ブラジル



南アフリカ



インドネシア



インド
















メキシコ



トルコ







中国

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/20 （1/13との比較） 今後の見通し （※4）	1/20 （1/13との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
日本 	A+	0.07% （+0.02）		+1.1% 2016年3Q	-	20年国債入札が比較的堅調な結果となり、欧米の政治動向が注目される中、国債利回りは小幅上昇。機械受注が予想を下回ったほか、内閣府から平成29年度の経済財政運営の基本方針が公表されたが材料視されず。	貿易収支やCPIなどの発表が予定される中、欧米の政治動向などを受けた海外市場が注目される。40年国債入札などが予定されるが、月末に日銀の金融政策決定会合を控え、国債利回りは大きく動きにくいと予想される。
	A1	 金利横ばい		 景気安定	-		
米国 	AA+	2.47% （+0.07）	114.62円 （+0.11%）	+1.7% 2016年3Q	0.75%	トランプ大統領の就任式ではTPP（環太平洋経済連携協定）離脱など米国第一が強調され、イエレンFRB（米連邦準備制度理事会）議長によるタカ派的発言も材料視された。国債利回りは上昇。米ドルは対円で上昇。	中古住宅販売件数や議会予算局の財政経済見通し、GDP（国内総生産）などの発表を予定。引き続き、財政・金融政策動向が注目される中、国債利回りは上昇しにくい環境が継続するとみられる。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ユーロ圏 （*） 	AAA	0.42% （+0.08）	122.69円 （+0.67%）	+1.7% 2016年3Q	0.00%	ECB（欧州中央銀行）が金融政策を維持する中、ドラギ総裁は緩やかな物価上昇の予想を示した。英国のEU（欧州連合）離脱方針が強硬と受け止められる中、ドイツの国債利回りは上昇。ユーロは対円で上昇。	消費者信頼感指数の発表やドラギECB総裁の講演などが予定される。またフランスで社会党の大統領選予備選が始まることから、各国政治の先行きの不透明感が材料視される可能性もあるとみられる。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示（*ユーロ圏についてはドイツの同格付を表示）。※2 10年国債利回りを表示（*ユーロ圏はドイツ国債利回り）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、米国：フェデラルファンド金利、ユーロ：主要リファイナンス金利を表示、日本は金融政策の目標が無担保コール翌日物からマネタリーベースに変更されたため非表示。



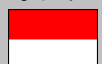

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国 (地域)	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/20 (1/13との比較)	1/20 (1/13との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	1.75% (+0.04)	86.09円 (▲1.40%)	+1.3% 2016年3Q	0.50%	中銀は政策金利を据え置いたが、次期米政権の政策などにより、リスクが現実となった場合には利下げの検討を行うと言及。米国債の動きに連れて、国債利回りは上昇。カナダドルは対円で下落。	卸売売上高などの発表が予定され、引き続き景気回復度合いを探る環境。米新政権はNAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉に言及しており、米国の通商政策に関わる動向も注目される。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気停滞	↘ 利下げ局面		
オーストラリア 	AAA	2.78% (+0.09)	86.63円 (+0.88%)	+1.8% 2016年3Q	1.50%	住宅ローン融資額と、雇用統計の雇用者数が予想を上回る内容に。中国のGDP（国内総生産）が予想を上回ったことなども材料視される中、国債利回りは上昇。オーストラリアドルは対円で上昇。	市況価格回復などを背景とした景気回復への期待が維持される環境下、CPIなどの発表を予定。引き続き現行の金融政策維持が想定される中、米国の政策動向と中国の経済指標などを受けた海外市場が注目される。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	3.25% (+0.13)	82.20円 (+0.67%)	+3.5% 2016年3Q	1.75%	住宅販売は大幅なマイナスとなったものの、製造業PMIや消費者信頼感指数が上昇したほか、隔週の酪農品入札の落札価格も前回から上昇。ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	発表予定のCPIは、伸び率が高まり中銀の目標レンジを回復する見込み。20年国債の発行を控えていることもあり、金利には上昇圧力が掛かりやすい環境。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.64% (+0.08)	13.60円 (+0.86%)	-0.9% 2016年3Q	0.50%	貿易収支は原油輸出額の増加を受け黒字幅が拡大。中銀総裁は講演後の質疑応答で、ノルウェークローネが想定していたよりもやや安くなっていると指摘。ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。	失業率の発表を予定し、安定した内容となる見込み。当面の景気回復が緩やかなペースとなり、低金利政策の継続が予想される中、金融市場動向は国内要因よりも原油価格動向の影響をより強く受ける見込み。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成)

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1か月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国 (地域)	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/20 (1/13との比較)	1/20 (1/13との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
ブラジル 	BB	10.57% (▲0.20)	36.10円 (+1.47%)	-2.9% 2016年3Q	13.00%	インフレ率の低下基調が確認されたことなどから利下げ局面の継続が見込まれ、国債利回りは低下。同國中銀による為替スワップ入札の再開が下支え材料となり、レアルは対米ドル・対円ともに上昇。	中銀は景気回復の遅れやディスインフレーション基調が緩和ペースの引き上げを可能にするとしており、国債利回りに低下圧力がかかりやすいと予想。レアルは為替市場介入への期待感が下支え材料となる見込み。
	Ba2	金利横ばい	金利横ばい	景気回復	利下げ局面		
南アフリカ 	BBB	8.11% (+0.06)	8.43円 (▲0.48%)	+0.7% 2016年3Q	7.00%	インフレ統計は市場予想を上回る高水準。一方、小売売上高はプラスに転換。市場全般の流れを受けて、国債利回りは上昇。ランドは対米ドル・対円ともに下落。	金融政策決定会合を予定。足もとのインフレは加速しているが、中銀の見通しと一致しており、政策金利は据え置きの見通し。同会合で想定外の発表がなければ、債券・為替ともに海外市場に影響を受ける展開を予想。
	Baa2	金利横ばい	金利低下	景気鈍化	利上げ局面		
インドネシア 	BB+	7.24% (▲0.06)	0.86円 (▲0.35%)	+5.0% 2016年3Q	4.75%	中銀は19日に政策金利を据え置き。2017年の景気について、輸出や設備投資を中心に景気拡大が続く見込み。海外からの投資資金の流入により、国債利回りは低下。ルピアは対円で下落。	自動車販売台数の発表を予定。米国金利市場が落ち着きを見せる中、景気拡大や海外からの投資資金流入の期待から、同国の為替・債券ともに堅調な推移を予想。
	Baa3	金利低下	金利横ばい	景気安定	利下げ局面		
インド 	BBB-	6.50% (+0.05)	1.68円 (+0.12%)	+7.3% 2016年3Q	6.25%	卸売物価指数は市場予想を下回る低水準。GST (物品・サービス税) の審議は中央・地方政府間で合意形成し、財務相は7月の導入が現実的と発言。国債利回りは上昇。インドルピーは対円で上昇。	主要経済指標の発表予定はなし。今後予定されている来年度連邦予算案や州議会選挙に関するヘッドラインが出る可能性があるため、市場は動意の欠ける展開を予想。
	Baa3	金利横ばい	金利横ばい	景気回復	利下げ局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成)

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示 (ブラジル：4年、南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年)。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高 (円安) を上向き、現地通貨安 (円高) を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。※政策金利については、ブラジル：Selicレート、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

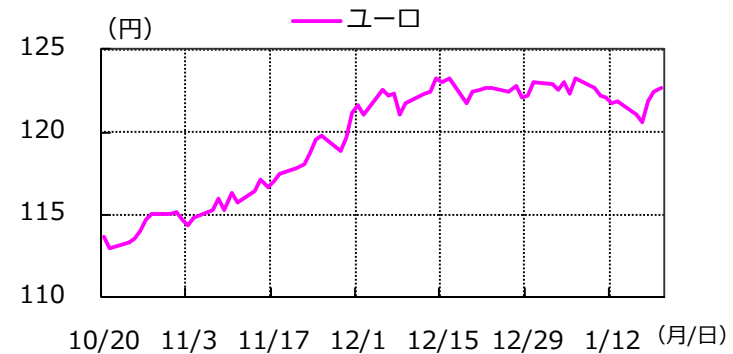
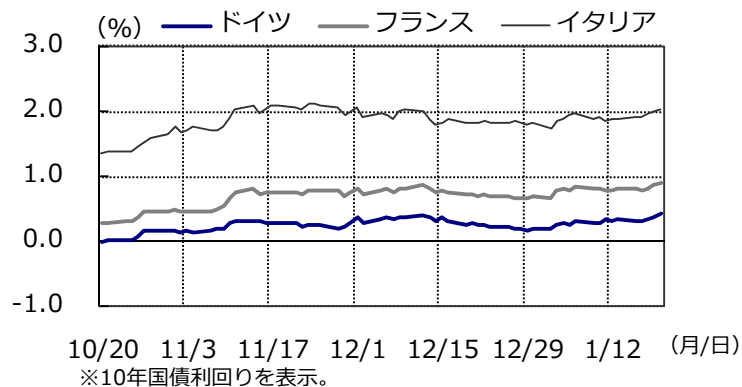
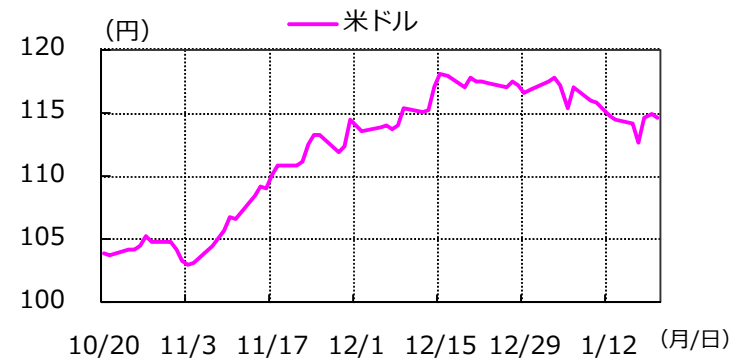
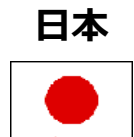
国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/20 (1/13との比較) 今後の見通し (※4)	1/20 (1/13との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
メキシコ 	A	7.28% (+0.01)	5.31円 (▲0.41%)	+2.0% 2016年3Q	5.75%	米大統領就任演説でトランプ氏から通商政策に関する新たな発言はなかったものの、週を通してペソは対米ドル・対円ともに下落。中銀副総裁は介入も辞さない考えを示唆。国債利回りは小幅上昇。	同国外相らと米国高官と通商や移民に関して協議が実施される予定。NAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉が表明された中、対米貿易の動向に注目。債券・為替市場は協議の内容に大きく左右される展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気回復	 利上げ局面		
トルコ 	BB+	11.30% (▲0.19)	30.52円 (▲1.64%)	-1.8% 2016年3Q	8.00%	12月の財政赤字が大幅に悪化するなど経済指標は冴えない中、これまでの急速な金利上昇基調が一服し、国債利回りは低下。リラは対米ドル・対円ともに下落。	24日に金融政策決定会合が開催される予定。0.5%の利上げ実施が見込まれているものの、同國中銀の対応に不透明感は強く、債券・為替市場とも同決定に左右される展開を予想。
	Ba1	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
中国 	AA-	3.98% (+0.04)	16.71円 (+0.21%)	+6.8% 2016年4Q	4.35%	固定資産投資や小売売上高などの経済指標は概ね良好な内容。GDP（国内総生産）も前年比+6.8%と堅調な結果などを受け、香港市場の人民元は対米ドル・対円ともに上昇。国債利回りは上昇。	工業利益の発表を予定。生産者物価指数などの経済指標が改善する中、工業利益は堅調に推移する見込み。1月末の春節（旧正月）を控え、香港市場の人民元の短期資金市場の需給が注目される。
	Aa3	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示（メキシコ：5年、トルコ：5年、中国（香港市場における中国国債の利回り）：10年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを表示。※為替レートについてはいずれもNY終値（中国の為替は、香港市場における人民元の為替レート）を表示。※政策金利については、メキシコ：翌日物金利、トルコ：1週間物レポレート、中国：1年物貸出金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/10/20～2017/1/20

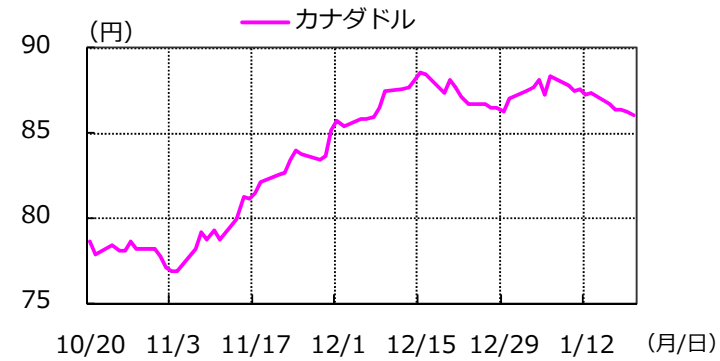


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

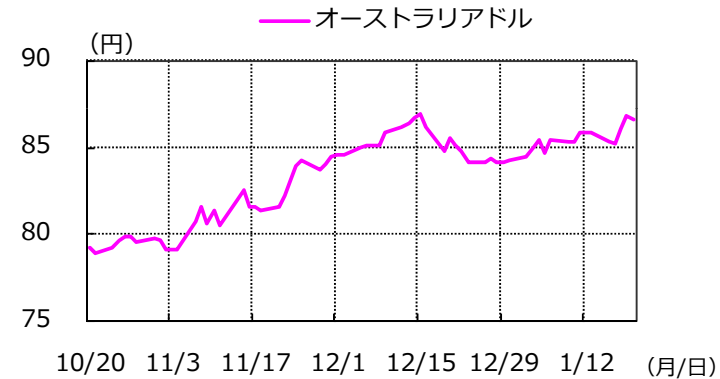
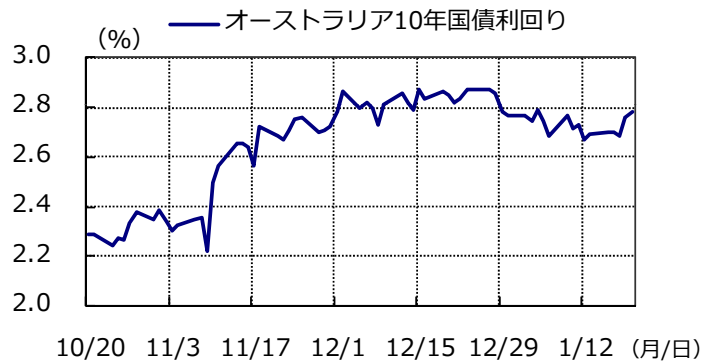
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/10/20～2017/1/20

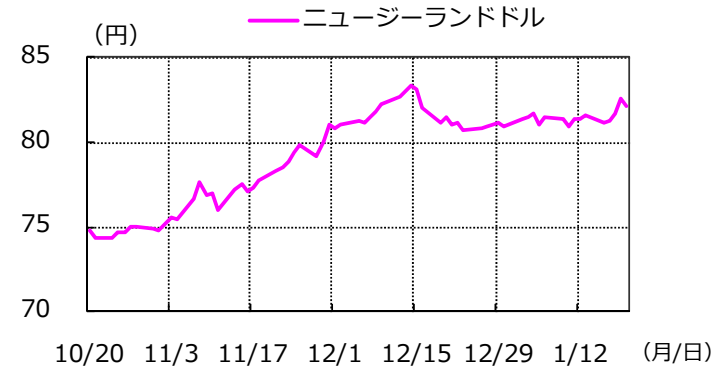
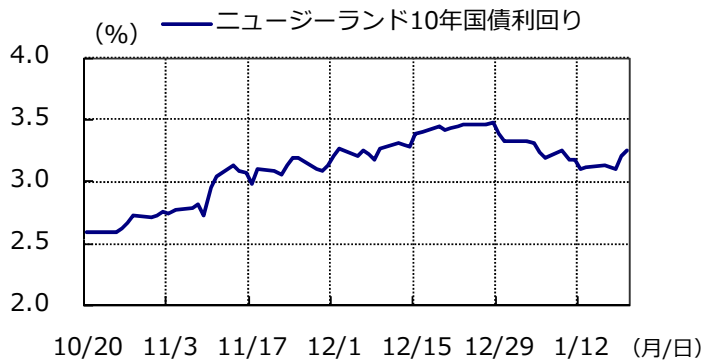
カナダ



オーストラリア



ニュージーランド

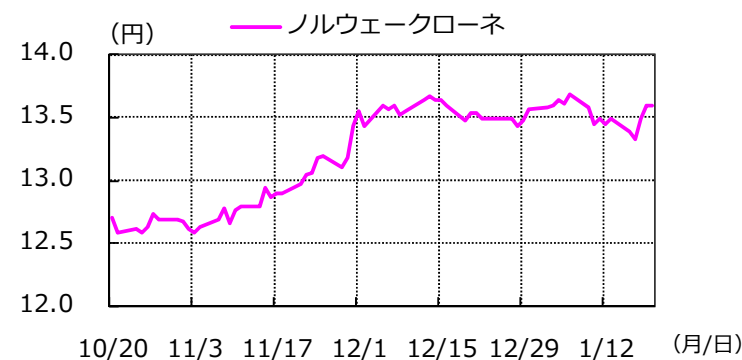
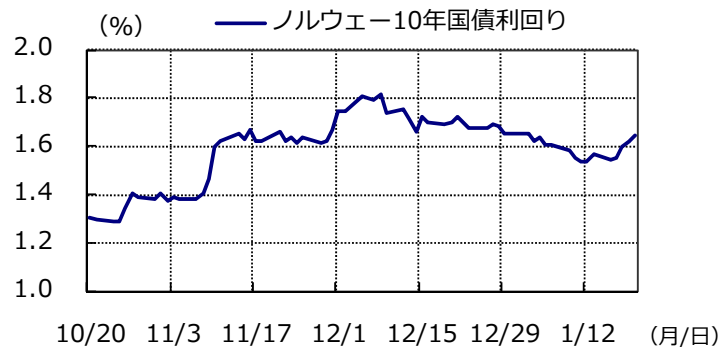


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

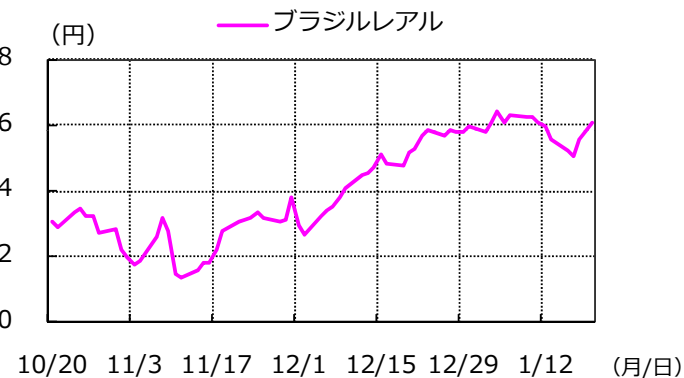
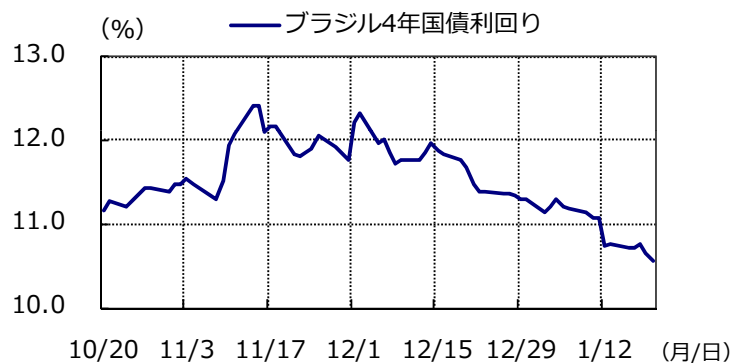
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/10/20～2017/1/20

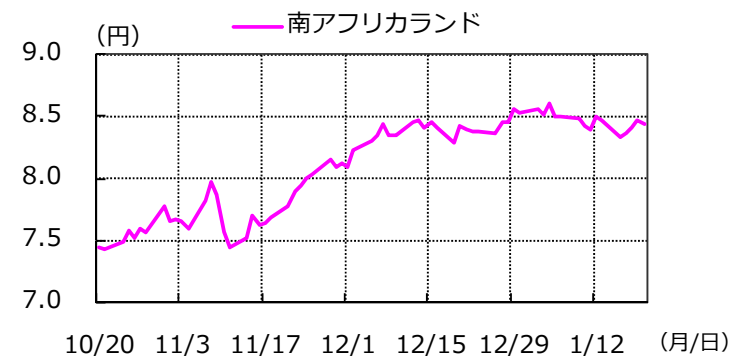
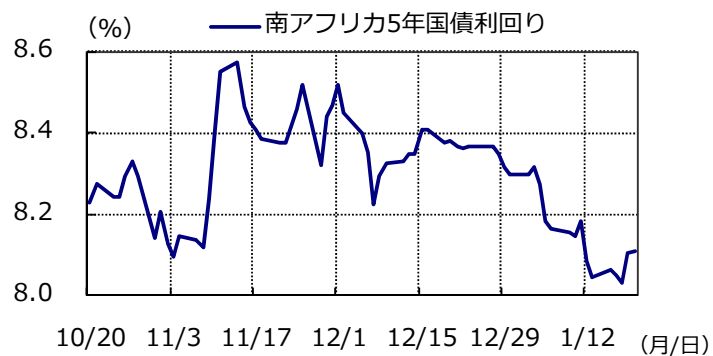
ノルウェー



ブラジル



南アフリカ

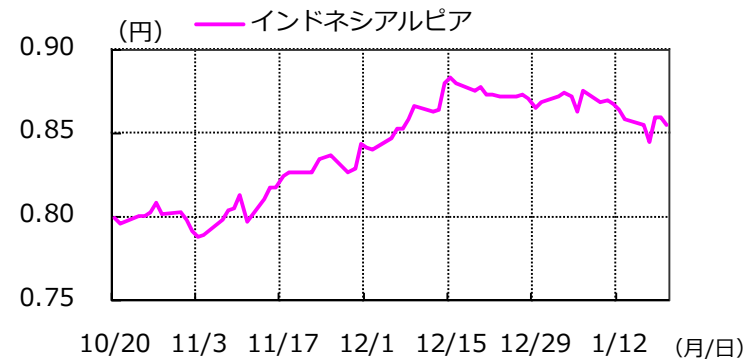


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

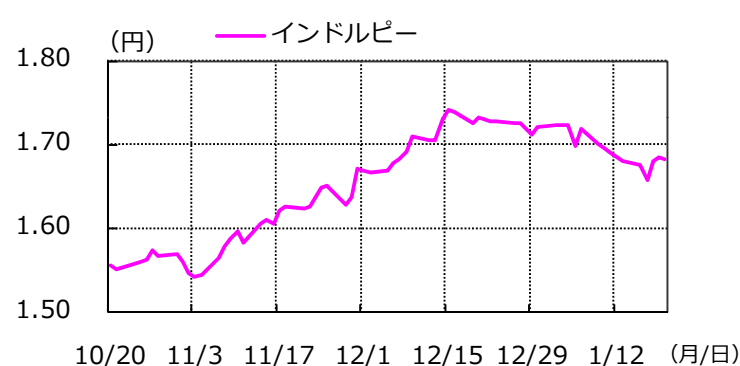
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/10/20～2017/1/20

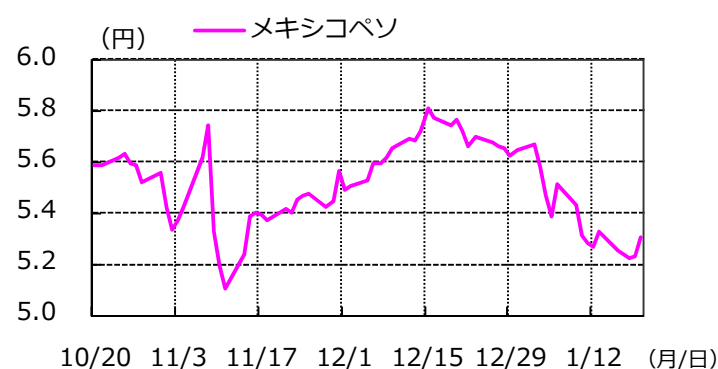
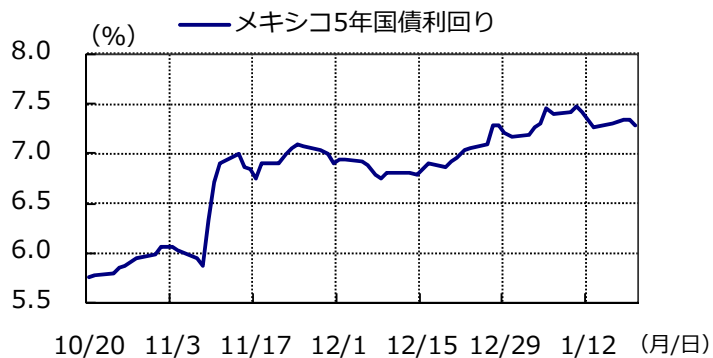
インドネシア



インド



メキシコ

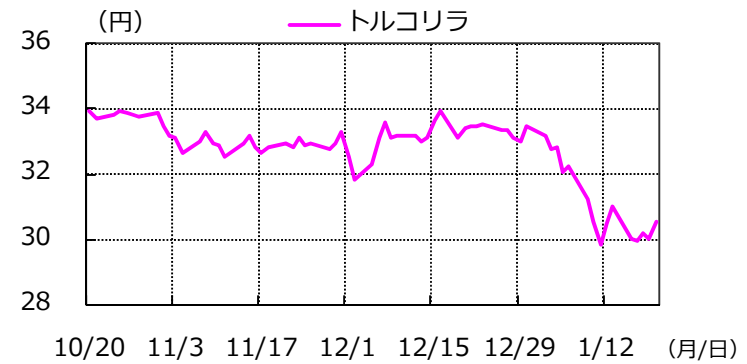


※インドネシアアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/10/20～2017/1/20

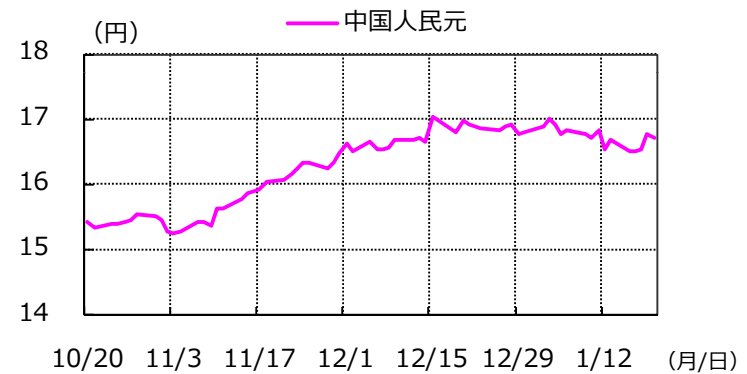
トルコ



中国



※香港市場における中国国債の利回りを表示。



※香港市場における人民元の為替レートを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。